

■科目名			
学校教育相談			
Introduction to School Counseling			
■開設年度	■区分	■学科名	■分類
2021	教職理解科目	心理学	
■単位数	■履修期	■履修条件	■開講期
2	3期		前
■担当教員			
今林俊一			
■代表教員名及び連絡先等			
今林：教育学部文科研究棟2F 心理学第1研究室（099-285-7775）			
■オフィスアワー			
火曜日4時限目（ただし、研究室在室時）または、講義終了直後			
■講義の概要（目的・内容・方法）			
<p>学校教育との関わりの中で、幼児や児童を正しく理解し、幼児や児童そしてその保護者を援助する具体的な方法としてのカウンセリングの技術を学ぶ。主に、折衷的カウンセリングの立場から関係性の中での援助アプローチの実際を体験的に学ぶことになる。</p> <p>具体的には、体験的かつ実習的なやり方となるので少人数に分割したクラス指定の組み分けとなる。</p>			
■授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的なカウンセリング理論に関する基礎知識を習得することができる 2. 自分自身の他者との関わりのあるように関する自分自身での気づきことができる 3. 他者と「開かれた関係」を今まで以上に結ぶことができる 4. 「傾聴」することができる 5. 他者に影響を与える「聴き方」をすることができる 6. 生徒の理解の方法を学ぶことができる 7. 学校教育の場で実践するカウンセリングでもっとも基礎的な技術を習得することができる 			
■授業計画			
<p>第1回：体験学習の意味（進め方や目標など）</p> <p>第2回：教育相談の意義（生徒指導提要も参照）</p> <p>第3回：教育相談の対象を理解する（発達理論）</p> <p>第4回：教育相談の対象を理解する（発達障害）</p> <p>第5回：教育相談の諸理論を理解する（事例のまとめ方・守秘義務と倫理も）</p> <p>第6回：自己を知る（ジョハリの窓・認知の偏り・防衛機制・エゴグラム）</p> <p>第7回：自己を知る（自我同一性・モラトリアム・ストレス・ストレス耐性）</p> <p>第8回：自己を知る（アサーション・原因帰属）</p> <p>第9回：学校におけるエンカウンター・グループ（構成的グループエンカウンター）</p> <p>第10回：構成的グループエンカウンター（自己紹介・関わり方・質問・自己PR・シェアリング）</p> <p>第11回：ロールプレイ（紙上演習・多様性や傾聴・シェアリング）</p> <p>第12回：ロールプレイ（ノンバーバルコミュニケーション・傾聴的態度・反映技法・ペア・シェアリング）</p> <p>第13回：ロールプレイ（バーバルコミュニケーション・感情の明確化・質問の技法・ペア・シェアリング）</p> <p>第14回：課題研究1（人と関わるときに大切なこと）</p> <p>第15回：課題研究2（自己理解と他者理解を深めるために大切なこと）</p> <p>性もあります。</p>			
■授業外学習（予習・復習）			
<p>（予習） 次回の授業内容に関連した生活体験を振り返り、経験内容の意味やそれへの感情をまとめておくこと。（学修に係る標準時間は約30分）</p> <p>（復習） 授業で体験した内容を振り返り、各自の気づきを明確にしまとめておくこと。（学修に係る標準時間は約30分）</p>			
■受講要件			
<p>少人数クラス指定（数学・家政専修）であるので、指定外のコマは受講を認めない。指定された期に受講しない場合や受講を放棄した場合は次期の受講に関して多くの制限が生じることになるので注意すること。</p>			
■成績の評価基準			
<p>講義中に課すレポートおよび最終レポートによって総合的に評価する。ただし、本講義が体験的演習方式で進</p>			

められるため、4回以上の欠席者は評価の対象者としません。同時に遅刻や3回以下の欠席も評価にかなり加味する。

■教科書・参考書

特に用いない。必要な資料は配付する。

■教師としての資質能力に関するチェック項目

5. 協働実践力

【B連携協働力、自己改善力の育成】 集団の中で、役割に応じてリーダーシップを発揮したり、他者と連携・協力して活動したりできる

7. コミュニケーション力

【B連携協働力、自己改善力の育成】 他者とのかかわりや適切なコミュニケーションの在り方について基本的な理解を深め、自らそれを実践することができる

8. 自己改善力

【B連携協働力、自己改善力の育成】 自らの課題を発見し、解決に向けた具体的な方法を企画・実践するとともに、結果を省察して改善につなげることができる

10. カウンセリングに関する理解

【C学習者理解】 カウンセリングや教育相談についての基礎的な知識を身に付けており、それらの知識を学習者理解に活かすことができる

13. 生徒指導に関する構想力

【D構想力、展開力、評価力等】 個々人の発達課題の把握や問題行動及びその対応等の理解を深めるとともに、積極的な生徒指導の在り方について構想することができる

アクティブ・ラーニング

グループ・ディスカッション；

振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中10回

■実務経験のある教員による実践的授業

■その他

講師の都合により、授業計画が変更されることがある。

コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により授業形態（対面・遠隔）を変更する場合がある。